

# 景況実感調査(2021年7月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 実稼働日20日となり対前月2日減、対前年1日減となり、数量は対前月若干のマイナスなるも、単価が切り上がっているため売上高はやや増加した。値上げが先行できている得意先の利益率はかなり上昇しているが、ごくごく一部であり、与信面での不安も注意が必要となる。財源(原材料)が限られた中での垂直上昇相場だからバランスしているが、フェーズの変化も急激となるリスクを意識せざるを得ない。
- ② 7月は前月比横這いであった。自動車関連は半導体不足の影響もあり全般的に需要は落ち着いているが、下期に向けて自動車をはじめとする製造業分野、建材分野ともに需要は回復すると思われ、国内需給は一段とタイト化すると思われる。
- ③ 高炉メーカーの受注制限により、材料不足は継続。原板値上げが新聞発表で表面処理+65円(ボトムから)だが、段階的に製品値上げを追かけていくしかない(母材値上げを拒否できない)。オリンピック後、建築需要が出て来ると思われるが、価格転嫁がどこまでできるか。
- ④ 例年通り夏場の荷動きは今一つの感じがする。引き続きメーカーの契約カットの影響で入荷が不安定である。今の在庫を大切に売るしかない。不本意だが選別受注を継続する。値上げも道半ばである。
- ⑤ オリンピックのせいか落ち着きはあるが、楽観視していない。盆明けから需要も本格化すると思われるので、これからむしろ危機感しかない。秋以降、再びタイト感が出て相場も上がると予想するが、ユーザーがついて来ないことには商売が成り立たないし、与信不安も募る。
- ⑥ 前月に比べ引合いは増えたが、早いお盆準備、オリンピック前にといった様子。追加値上げの発表もあり、材料確保に追われそう。価格は、まだ上げ切れていないが、与信不安がつゆる。

## 中板

- ① メーカー動向及び現在の母材価格を見ると更に値上げしていかなければならないが、値上げ疲れもあるのか価格、荷動きともに落ち着いている。東京製鐵の8月価格薄板据え置きを発表も影響あり。コロナ患者増加による生産調整、オリンピックでの交通事情、お盆休みも控え当面荷動きは期待できない。更に天候の影響で母材の入荷遅れも考えられ、お客様との納期調整も注意が必要。
- ② 前月6月の加工は、オリンピック開催の見通しも立って交通渋滞回避のため前倒し、高水準で推移したが、7月に入り前半ペースダウンした。後半は、今度は夏休みを控えた前倒しにより急回復し、日当たりでは前月並みの数字が残った。在庫の払底は続いているが、仲間売りの引合いは様子見的で、一時の活況は感じられない。大手ユーザーの下請群では集購材の供給圧縮も見られ、店売り材への供給要請も強まっているものの、ユーザーへの価格転嫁については厳しく、応じてくれない先が多いのが実情である。今後の更なる店売材の供給タイト見通しもあり、長年の取引先であっても、採算を重視して選別受注せざるを得ない状況となっている。
- ③ 鉄鋼メーカーの大幅値上げが続いているが、どこが最終なのか分からない。その都度価格転嫁をお願いしているが、与信不安も大きくなってきている。

## 厚板

- ① 建設機械は引き続き好調。店売り関連は一部の鋼種、板厚によっては在庫が無い物も出てきた。
- ② <全体感>建機や造船の紐付き分野の良好な需要環境は継続しており、建材分野も下期から本格化する見通し、一方で中国の鉄鋼輸出抑制を主とする海外主要ソースの対日輸出量の減少は継続し、国内メーカーの設備休止及び高炉改修などに伴い先行きの供給減は必至で、メーカーの引き受け制限及び納期長期化はさらに加速。国内の需給は一層タイト化する見通し。紐付きユーザーは、生産増に対応するために鋼材を確保することを優先し、メーカーの値上げを飲まざるを得ない状況。<分野別>建機は外需に牽引される格好で引き続き好調。鉄鋼メーカーが供給タイトな中で、各社とも材料確保に苦慮している。中国の建機市場の減速が気掛かり。産機は上期中は生産回復が緩やかなものにとどまったが、下期はさらに急速な増産があるとの情報もある。店売りは、高炉メーカーの値上げピッチが緩まない一方で、街場は盛り上がり欠けている状況で、切板価格に思うように値上げを転嫁できていない。メーカーのデリバリーは依然として90日以上かかっており、街場の在庫の逼迫感が強まっている。現物在庫を大事に売る動きもある。

## —舟安开形鋼

- ① 6月は某顧客の大口物件があり、7月はその反動を危惧していたが、顧客全体の荷動きの盛り上がりが見られ杞憂と化した。しかし、前月比販売数量減を市況高騰でリカバーした側面は見逃せない。この4月以降、前向きな荷動きの変化がある。秋需に期待する余裕も生まれた。
- ② 建築の基礎工材が入らず、工期が遅れている。オリンピックにより1年半位遅れていて、ホテル案件、オフィスビル案件で無くなっているものもある。職人さんも仕事が無く疲弊してしまっている。

## 工工开形鋼

- ① 7月の倉出しは増加。前年同月比でも増加。稼働日減少も、日当たりでは増加。オリンピックの影響は感じられず、引合いも増え、在庫も減少し、歯抜けサイズも見受けられる。9月以降に向けて早期に再販単価を上げていく。
- ② 7月の荷動きについては、6月比稼働日が1日減少も増加となり、不需要期は脱したものである。オリンピックの影響もあまりなく一安心。今後は需要期入りを迎え、在庫のタイト化も顕著になり、価格転嫁の環境は整ってくるのは間違いなく、ただただ適正マージンの取れる市況形成に注力するのみ。

## 異形棒鋼

- ① メーカーの値上げ攻勢が続いているため、販価の改定を進めている。荷動きは小口当用買いで、明細が細かく、数量は少ない。
- ② 7月の動きは予想より良かった。価格も段階的に上がった。8月の前半は稼働日が少なく動きも少なく、半分。9月に価格をもう一段上げざるを得ない。
- ③ 建設関係は全く明るい材料がない。

## 平鋼

- ① 仮需の反動もあり荷動きは元の低位安定に戻った。オリンピックの影響はほとんど感じられない。メーカーが3ヵ月連続値上げを行ったため、価格転嫁が追い付かない。秋以降の需要に期待しているが、製造業からの生産調整なども聞くので、今後の荷動きを注視している。
- ② 7月に続き8月もメーカーから値上げの連絡が入った。3ヵ月連続の値上げだ。8月、9月にかけて値上げをお願いし、価格転嫁を進めていきたい。

## 車量用鋼

- ① 入荷が悪く苦勞しているが、今後は更に悪くなるのではないかとの声も聞こえてくるので、心配している。
- ② 原材料の価格高騰と不足の狭間で不安要素が大きい。
- ③ 最終製品への価格転嫁が難しい。

## 鋼管

- ① 溶協品は6月に入って段階的な値上げを実施したが、更なるメーカーの急激な追加値上げに価格も高騰。在庫も急速にタイト化している。
- ② メーカーが作れば作るだけ売れ、皆が入荷を待ち望んでいる。値上げしても売れ行きは落ちず、需要は旺盛。まるで今年のマスクとトイレットペーパーのようで、今後の展開が心配である。

## 構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車、建機関連は好調。工作機械、一般産機向けも底堅い。市中の荷動きは、紐付きは好調だが、一般店売りは需要分野で濃淡があるものの横這いの状況。在庫はロール遅れにより歯抜けも見られタイト感もある。メーカーの販売姿勢は強く、今後も強含み上伸基調が続く見通し。
- ② 自動車、建機、産業ロボット関連は堅調。店売りはやや回復気味も、前者とは温度差がある。市況は足下、各メーカーとも追加値上げの動きがあり、今後さらなる値上げ転嫁を強いられるだろう。

## 磨棒鋼

- ① 店売り品は先月から頭打ち状態が続いている。値上げ前の需要増の反動減というよりは、次の値上げに向けての様子見といった雰囲気。紐付き品は自動車向け物件に一部調整が見られるが、建機、産機とも順調な出荷が続いている。秋以降、半導体の供給がどの程度回復するかがカギとなる。

## その他

### <鉄スクラップ>

- ① スクラップが世界的にもエコで貴重な再生資源として注目され、価値が上がっている。そのことに加え、メーカーは増産傾向にありスクラップ需要は旺盛な状況が続いている。問題点は供給が追い付けないこと。ただし、現状スクラップ相場は高騰気味なので、スクラップ発生量が増えてくれれば適正価格に落ち着いて来るのではないかと考えている。

### <金属表面処理>

- ① 7月は購入品(塗料・副資材)の値上げにより、加工賃の値上げを取引先にご理解頂き開始となる。扱い量は紐付きが大幅増、物件物も計画通り。プラント配管も多く、物件の動きを実感。先案件の見積りも増加しており、8月以降の動きを期待する。